

日時：令和元年10月25日（金）

午後2時から午後4時まで

場所：日立市役所503・504号会議室

出席委員：13名

1 開 会

2 委員長挨拶

- ・後期基本計画の計画期間5年のうち、今年はちょうど中間3年目、節目の年である。PDCAサイクルを回すべく、計画に基づき施策・事業を実施し、昨年度に続き評価を行っていただくが、計画そのものがどうであったのかという話も徐々に出てくると思う。それを次期計画につなげていかなければならない。各委員においては、次期計画を見据えながら、遠慮なく様々な御意見をいただきたい。

3 議 事

(1) 評価会議の進め方について

事務局から資料3に基づき説明

→（委員意見なし）

(2) 後期基本計画の進捗状況に関する評価について

事務局から資料4及び資料5に基づき説明

→「目標指標」に係る主な意見は次のとおり。

- （委員） 「財源等確保額」について、平成28年度の基準値よりも令和3年度の目標値が下がっているが、その方が評価されるということか。
- （事務局） 本来、財源確保額は多いほどよいが、目標値を設定する際、本市はそれまでも人口減少が続いており、市税収入も徐々に減少していたことから、人口減少分を上回る税収の確保はなかなか難しいとの認識を持ちつつも、担当課において、下がり幅を抑えようという目標の下、設定している。
- （委員） 「ごみのリサイクル率」について、これは清掃センターに搬入される分も含めた数字ということか。今は事業者が巡回し、新聞などいろいろなものを回収しているが、それらも含めた市全体のリサイクル率ということか。
- （事務局） もちろん清掃センターに持ち込んでいただく再生資源も含まれるが、その他、市で把握している数字として、スーパーマーケットなどでも段ボールやペットボトルを回収しており、それらについて市で集計し、リサイクル率に反映している。
- なお、個人事業者の回収分まで含むことは難しいかもしれないが、市から回収の協力を依頼しているスーパーマーケットや、公共施設の分別スペースなどについては含まれている。
- （委員長） 「ごみのリサイクル率」について、その数字が年々悪化しているかどうか、また、数字に含まれない分がどの程度あるかが不透明である。

- (委 員) 基準値未満の項目について説明があったが、項目によっては、基準値未満であっても必ずしも市民生活が悪化しているということではないと思う。例えば、「ふれあいサロン参加者数」について、参加される方は認知症防止のために参加しているが、認知症患者になれば参加者数は減少し、一方で、対象年齢に達すれば参加者数は増えることになる。
- また、健康な方は他にもいろいろと取り組んでおり、必ずしも参加者数が増えればよいということでもないと思う。さらに、バス交通利用者数について、利用者数が減少しても別の交通手段を利用している場合もあり、数字だけで判断するのはどうかという項目も多くあると思う。
- 人口減少の影響で数値が悪化することが止むを得ない項目もあり、それらを吟味し、この数値だけで目標達成、未達成とするのではなく、市として、もう少し突っ込んだ評価をしていただく必要があるのではないかと。
- (事 務 局) 御指摘のとおりかと思う。本日御紹介した内容はあくまでも各委員に現状を御理解いただくための一つのものさしであり、実際には数字だけで推し測ることができない指標が多くある。それらについては、庁内各課所がそれぞれの業務の中で留意し、対応していかなければならない。
- (委 員 長) 本来は計画策定時に、目標指標になり得るか、より考えるべきであり、国もアウトプットからアウトカム、すなわち成果を、という流れになっている。次期計画においては、もっと各委員が納得するような成果について、じっくり見極めていくべきであると思う。
- (事 務 局) 補足させていただくと、御紹介した数字は一面しかとらえておらず、こういった計画は、最終的には市民満足度を高めていくために策定している。後期基本計画には、現在の市の施策や事業に対して市民がどの程度満足されているかという項目があり、それを数年に一度測っているが、こういった数字がよくなったからと言って、必ずしも市民が満足するとは限らないし、その一方で、数字が悪くなってもその中でよい点が見つかるかもしれない。最終的には、どれだけ市民に産業や福祉、教育などの各分野において満足していただけるかということである。今後も市民の満足度を定期的に確認させていただき、それが少しでも現状を上回るよう進めてまいりたい。
- (委 員 長) 2年、3年と計画を回してみなければわからない面もある。資料4と資料5の相関関係により、全く市民の満足度が上がらない項目などが次のサイクルでわかってくる。
- (委 員) 「就労支援施設からの就職者数(年間就職者数)」について、印象では、市内の施設数も増えていることから、当然利用者数も増えていると思う。この指標は人数で示されているが、分母が見えてこない。割合で示した方がわかりやすいのではないかと。
- (事 務 局) 御指摘のとおり、計画策定時は人数で設定したが、割合で示す方がわかりやすいかと思う。市内41施設全体の利用者数は531人で、前年度より8人増えている。次期計画策定の際は、割合で示すことを検討させていただ

きたい。

- (委 員) 「保育園等の待機児童数（4月1日現在）」について、平成30年度実績値も0人で期待値以上であるが、よく保育園を探しているがなかなか入れないとか、育休後に現場に復帰しようとしても保育園がなかなか見つからないとの声を聞く。この指標の数字は、市内全体の話であり、地域によって異なると思う。地域別の特性は把握しているのか。
- (事 務 局) 毎年4月1日現在の数字で0人となっているが、年度途中で仕事に復帰しようとしても、保育園の空きがないということもある。これは他の自治体においても同様であるが、年度末に向かうにつれて待機児童も増えていく傾向がある。本市においても、4月1日時点は0人であるが、秋冬にかけて待機児童が出てくる。市全体では定員に空きがあっても、自宅や職場近くの保育園に空きがなく、保護者の意向に沿わないケースもある。そういった数字がどこまで出せるかということはあるが、いわゆる隠れ待機児童も検討材料に加えることができるよう、担当課と調整させていただきたい。
- (委 員 長) 大変重要な御指摘である。地域をブロック化して集計するとか、第一希望にどれだけ沿っているかといった集計も必要である。

(3) 重点プロジェクト事業の概要説明及び意見交換

ア 若者イベント推進事業〔女性青少年課〕

(事業担当課から資料6-1に基づき説明)

- (委 員) このように実際に人が集まってどのような効果があったのか。
- (事業担当課) 事業の効果として、なかなか数値だけで測ることは難しいが、例えば「サンタ de チャリティーウォーク」は、御参加いただいた方に達成感を得てお帰りいただいているかと思う。また、「サッカー日本代表応援プロジェクト」のパブリックビューイングについては、会場の問題もあり、応募いただいた方全員には御参加いただけなかったが、御参加いただいた多くの方に、魅力のある楽しいまちというイメージを持っていただいたと感じている。
- (委 員 長) 「サンタ de チャリティーウォーク」など、今年も参加者数が増えるか楽しみである。イベントの参加者数が順調に増加しているのであれば、若者たちに口コミで広がっていることも想定される。イベントにより、まちのにぎわい創出にもつながることから、引き続き事業を推進していただきたい。
- 今年度からの主催団体である「若者団体交流委員会」を構成する5つの団体とはどこか。
- (事業担当課) 主催団体である「日立市青少年イベント企画部」のほか、「日立市職員労働組合青年女性部」、茨城キリスト教大学の地域貢献サークル「HEMHEM」及び2つの自主グループに御参加いただいている。
- (委 員 長) 企画段階でもいろいろと交流が生まれるかと思うため、ぜひよろしく願いしたい。

イ 防犯灯の在り方検討事業〔生活安全課〕※事業担当課欠席（資料6－2）

（委員） 日立市コミュニティ推進協議会として、市に対し、防犯灯の公共化などの提案を行っている。具体的には、まずは平成30年度から令和2年度にかけてLED化を完了させることで、各灯の電気料金を低減し、その補助を市が行う。その次に公共化について段階的に考える、と市から話を受けている。

防犯灯、保安灯はいろいろな団体の所有であることが非常に多く、誰が管理しているかよくわからないということで、現在、行政が業者委託により防犯灯の全灯調査を実施している。行政もコミュニティも本事業についてはいろいろと対応を行っている状況である。

ウ 地域公共交通再編事業〔都市政策課〕

（事業担当課から資料6－3に基づき説明）

（委員長） いろいろと先進的に取り組んでいるという印象である。

（委員） 「NPO法人助け合いなかさと」は設立して10年になるが、中里地区はタクシー会社がなく、公共性が非常に低い地域であることから、市に要望を始めた経緯がある。事業者として、コミュニティは認められないため、NPO法人を設立した。地域内の全世帯に御負担をいただき、運営を行っている。

全国的な問題であるが、運行範囲が公共交通と競合することがあり、現在では、日立鞍掛山葬祭場まで運行するほか、今年ようやく日立市役所まで運行できるようになったが、日立総合病院までは運行することができない。

行政上の制約もありなかなか難しいところであるが、今後は諏訪学区においても予約型乗合タクシーの試験運行を行うとのことで、取組が進んでいる状況であり、少しでも使い勝手がよい方向となるよう、このような取組が市内全域に広がっていけばよいと思う。

（委員） 公共交通は、以前は一つのバス事業者が自主的に運行していたが、現在は行政と連携し、路線を維持させていただいている状況である。その他、「高齢者おでかけ支援事業」として、高齢者に元気に外出し歩いていただくという取組を実施させていただいている。昨年度、初めてバス利用者数が下げ止まったこともあり、後期基本計画の目標値を達成するよう、行政と一緒に取り組んでまいりたい。

（委員長） 地域公共交通の維持・確保については、様々な課題もあるかと思うが、地域住民、行政及び交通事業者が連携することは重要であり、今後もパートナーシップ事業の取組を進めていただきたい。

エ 山側住宅団地住み替え検討事業〔都市政策課 住政策推進室〕

（事業担当課から資料6－4に基づき説明）

（委員） 自宅近くに最近新たに住宅ができていますが、説明であった山側住宅団地へ

の住み替え助成のほかにも、市内住宅取得に係る助成制度はあるのか。

(事業担当課) 市内に住宅を取得した子育て世帯に対し、最大 51 万 5 千円の助成を行っている。

(委員長) 多様な世代にバランスよく住み続けていただくというこうした取組は非常に重要であると思う。山側住宅団地への住み替えに対する助成についても、実績が上がっており、引き続き進めていただきたい。

(委員長) 全体の評価として、登載事業の 9 割以上に着手し、目標指標については全部で 61 項目あり、6 割以上の指標が基準値以上、約 2 割の指標が基準値未満ということであった。

ここで、平成 30 年度の評価のまとめであるが、いろいろと御意見は出たが、基本的には実施の部分ではなく、計画策定時の指標設定に係る御意見であったかと思う。全体の評価として、「おおむね順調に進捗している。」とさせていたいただきたいが御意見いかがか。

→ (委員意見なし)

(委員長) それでは、今回の評価は「おおむね順調に進捗している。」との結果とする。各委員においては、本会議を皮切りに、思いついたことがあれば事務局に意見をおっしゃっていただきたい。また、事務局においても、次の計画につながるような貴重な御意見は反映させていただきたい。

(事務局) 閉会に当たり、一言お礼の挨拶を述べさせていただきたい。委員の皆様においては、足元の悪いところ長時間にわたり御審議をいただき感謝申し上げます。本日いただいた貴重な御意見について、今後の計画の進行管理にいかしてまいりたい。委員の皆様には今後も引き続き御指導を賜りますようよろしくお願いしたい。

4 閉 会

以 上